

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／平山 諭

10年後、20年後を見据えた 長期ビジョンを策定。 手間を惜しまない教育を展開する

本 学は1877年に創立された伝統ある大学です。しかしそれに安住しては未来がありません。10年後、20年後を見据え、進むべき道を示さなければ、との思いから創立135周年にあたる2012年に策定した長期ビジョンが「N2020 Plan」です。内容は建学の精神の浸透、教育の質向上、学生支援、キャンパス整備など多岐にわたっています。取り組むべき課題は法人全体で170におよび、アクションプランとして具体的な改革を実行しているところです。

私は日銀出身の元金融マンですが、非常勤講師として6年ほど大学で教鞭をとった経験がありますし、今でも非常勤で授業を受けています。学生は正直です。手を抜けば見抜かれますが、一生懸命教えていると、その分だけ手応えを感じます。学生が成長する姿を見るたび「教育」のすばらしさを実感しています。そうしたこともあり、学校法人の理事長の立場から、教学面の改革にも積極的にかかわっています。一方通行ではない討議型の授業を取り入れていくほか、シラバスの充実にも努めているのもそのひとつ。本学の特徴として、文学部で約800、国際政治経済学部で約350という開講科目の多彩さがあげられます。それらを難易度別にして選択しやすくしたり、「この科目はどういう力がつく」「予習復習はこうする」など細かく伝えたりしています。手間はかか

りますが、それを惜しんではいけません。今の大学生の7割は不本意入学といわれます。多くは偏差値にとらわれて、能力や個性があるにもかかわらず、自分の限界を勝手に決めてしまいがちです。努力することをあきらめさせてはいけません。そのためにも教員は手間を惜しんではいけないのです。本学の教育で特に力を入れているのが国語力、言いかえれば表現の力です。相手の話を正しく理解し、自分の意見を正確に伝えること。絶対的な正解などない世の中において、他者と議論しながら、ひとつの結論を導き出すこと。これらは学生が社会にでたときに必要とされる力であり、その教育に力を注いでいます。本学は国語を中心とした教員の輩出校として知られ、「二松學舎」といえば「国語力」という評価も定着し、その伝統を継承していきたいと思っています。

本学はまた「国漢の二松學舎」として、東洋の精神文化を基盤とした人間教育の実践に努めてきました。人としてどう生きていくか。思いやりや慈しみの心、誠実さや忍耐力など、日本人としての美德についても、大学生はもとより附属の中学生・高校生に対し、しっかりと涵養していきたいと感じています。

学校法人
二松學舎(二松學舎大学)
理事長
水戸英則



【理事長プロフィール】みと・ひでのり●1943年生まれ。九州大学経済学部卒業後、日本銀行入行。調査統計局物価統計課長、日本銀行青森支店長、同調査局参事考査役、株式会社肥後銀行常務取締役などを経て、2004年二松學舎大学事務局次長。11年9月より現職。文部科学省国立大学法人評価委員会委員など役職多数。

【大学プロフィール】1877年設立。文学部(国文学科、中国文学科)、国際政治経済学部(国際政治経済学科)の2学部3学科。学校法人として2つの附属高校と中学校を擁する。